

撮影者のことば

初めてイスタンブルの土を踏んだのは1981年でした。ギリシアのテサロニキから列車でシルケジ駅に着きました。

イスタンブルに魅せられた私は、それから毎年、トルコを訪れ、トルコ、とくにイスタンブルを、カメラを担いで歩きまわりました。

トルコについて本を書き、寄稿してきましたが、膨大な量の写真もたまりました。ポジ・フィルムもデジもあります。その写真の中から「イスタンブルの人間風景」を選んでみました。

いまのイスタンブルはもっと近代的でカッコイイというイスタンブルっ子の不満が聞こえてきそうですが、今回の写真展は1981年代から近年までのイスタンブルの人々のスナップです。

昔の写真については、ご年配の方は懐かしく、若い方は珍しく、ごらんいただければと存じます。

人間風景 (Insan Manzaralari) というタイトルはトルコの詩人ナーズム・ヒクメットの作品名からいただきました。

澁澤幸子